

OSAKAボランティア手帳

～11月中旬販売！～



2年間使用できる手帳です。今回の表紙デザインは『みんなで作るわが街』。だれもが住みやすく安心して暮らせるまちづくりをイメージしています。

寄付つき商品で、1冊400円(税込)のうち、10円が赤い羽根共同募金に寄付されます。

【問合せ】

大阪府ボランティア・市民活動センター
☎06-6762-9631

We support



表彰の舞台に立つ有木 寿仁さん(左)と奥宮 康介さん(右)

子どもさわやか賞

地域で高齢者や障がい者等との交流活動、公共の場の美化清掃等のボランティア活動を行っている個人および団体等に、子どもたちのさわやかな活動の輪が広がり、大阪が子どもの夢あふれるまちとなるようにとの願いを込めて贈られる賞です。

今年度は、12団体・個人が受賞し、7月7日に開催した大阪府民生委員児童委員大会で表彰式が行われました。
〔今年度受賞団体の活動概要〕
・子どもたち発案の高齢者施設との交流活動
・清掃活動・防災活動 など



三中代表からの説明を聞く小学生



みんなで町をピカっと

富田林市立第三中学校「町ピカ大作戦」



大阪府民生委員児童委員協議会連合会では、地域活動やボランティア活動にいきいきと取り組む子どもたちへ「子どもさわやか賞」を授与しています。
富田林市民生委員児童委員協議会から推薦され、今年度受賞にいたった富田林市立第三中学校生徒会(以下、三中)の活動を紹介します。

校区一丸となった活動

町ピカ大作戦(以下、町ピカ)は、毎年12月に校区内全12地区を地域住民や小学生、幼稚園児、保護者、教職員が一丸となり清掃する活動で、令和4年度は約880人が参加しました。各地区では三中の生徒がリーダーとなり活動を先導します。実施に向けて、地域の学校応援団「三中ネット」が各地区の総代と打合せを行い、三中の代表生徒が保護者や小学校、幼稚園への事前説明な



道路のゴミを拾い、町をピカピカに

地域住民と子どもたちがつながるきっかけとして、平成11年に活動を開始。今年で25年目になります。生徒会長の奥宮 康介さんは、「受賞が決まった時は、25年つづく伝統を紡ぐことができたことへのうれしさと感動があった」と話します。コツコツと継続して活動してきたことが実を結んだといえます。

「清掃に関心がないように見える子どもも、『競争!』と言って競いあいながら作業するなど、少しの工夫で楽しそうに参加してくれるのがうれしい」と笑顔で話すのは生徒会学年代表の田中 奏輔さん。

中学校としても、生徒が社会貢献活動を体験してほしい、地域のリーダーとして活躍する力をつけてほしいという思いから、生徒の活動を後押ししています。

地域で活躍する

民生委員・児童委員さん

NO.42

このコラムは、地域で活躍する民生委員・児童委員(以下、民生委員)さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。今回は、出会いの場を積極的に企画する副会長の長山さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

● 人に寄り添える活動

「民生委員は人に寄り添える活動」。民生委員を40年以上務めた母の言葉です。イキイキと活動していた母のように、自分も地域のために何かできたらと引き受けました。なかなか打ち解けられなかった地域住民に継続的に関わることで、「いつもありがとう」と声をかけてもらえるようになり、とてもうれしかったです。



田尻町 長山 梨津子さん (民生委員歴8年)

● ボランティア活動25年

一方、長年国際交流を企画するボランティアとして活動しており、町内に研修に来ている外国人と地域住民との交流会を開催。はじめは戸惑っていた参加者も日本のことを教えてあげたいと、今では積極的

Q 質問数珠つなぎ

Vol.41 羽田さんから質問 多様性はどんなイメージ?

A さまざまな人々の特技を生かして、人をつなぐことができる「可能性」。

に交流を楽しんでくれています。自分が継続してきた活動と、民生委員活動がつながることでよりよい実践が生まれることを実感しています。

● 支援後の見守りも大切に

以前、高齢者から生活が苦しいため引っ越したいと相談されました。一緒に行政へ問い合わせるなど、引っ越しのサポートを行い、今も見守っています。日頃からいろいろな相談を受けますが、必要な関係機関につなぎ、その方の困りごとが少なくなるよう心がけています。

● 楽しめて情報を得る場に

ひとり暮らしの高齢者同士が気軽に交流を深め、話せる場として、茶話会を立ちあげました。顔見知りになることで情報交換ができ、困りごとを話せる場にもなっています。より多くの方に参加してもらうため、対象年齢の引き下げも検討しています。今後も地域住民に寄りそい、地域を活性にしていきたいです。



左から、生徒会の田中 奏輔さん、有木 寿仁さん、奥宮 康介さん、堤 周作校長先生

小さいころから町ピカを

「地域の方とつながったことで、声をかけてもらえたり、あいさつしてもらえたりすることが増えた」と、生徒会副会長の有木 寿仁さんは語ります。
「さまざまな課題もあるが、町ピカを経験した子どもたちが大人になって町ピカを引っ張っていく。そのような好循環をつくって、『この地域や学校で生まれ育ったよかったです』と想ってもらえることを目指して今後も継続していきたい」と堤 周作校長は今後を見据えます。
清掃活動を通してつながる地域の環、富田林市立第三中学校を中心に地域一丸での取り組みはこれからもつづきます。